



11月19日に市内で開催された「わかもののまちサミット2023」で「菊川市子ども・わかもの参画宣言」を全国に先駆けて発表しました。市では、これまでも若者が地域で自分らしく活躍できるようさまざまな取り組みを行ってきましたが、宣言を発表することでさらに大きな一歩を踏み出しました。今回の特集では、わかもののまちサミットの内容を振り返りながら、市の若者参画の取り組みと「菊川市子ども・わかもの参画宣言」について紹介します。

問い合わせ 地域支援課市民協働係(プラザきくる内☎35-0925)

写真:わかもののまちサミット2023の様子

わかもののまちサミット 菊川で開催

11月19日、「わかもののまちサミット2023」が市内で開催されました。NPO法人わかもののまちが主催する全国規模のイベントで、全国からわかもののまちづくりに取り組む実践者や当事者である若者、自治体関係者など200人以上が参加しました。サミットの目的は、お互いの取組を学び合い、ネットワークを構築し、若者参画を広めて行くこと。2020年の名古屋市、2022年の京都市に続き、本市が3カ所目の開催地となりました。

午前中の全体会では、「若者参画の生態系をつくる」をテーマにパネルディスカッションが行われました。最初に、菊川市の取組を、菊川市市民協働センターの笠原活世センター長と菊川市子ども若者参画協議会の高校生メンバー戸塚俊作さんが発表しました。続いて、鯖江市役所JK課の高校生、大熊美郁子さんと櫻井莉乃さん、子ども家庭庁参事官の佐藤勇輔さんが、それぞれの取り組みを発表しました。

その後、静岡大学の日詰

一幸学長、一般社団法人Masterpiecesの菊池真梨香さん、NPO法人わかもののまち代表の土肥潤也さんを加え、意見交換が行われました。

午後の分科会では、参加者が4つのテーマに分かれ、事例報告や意見交換を実施。各テーマのゲストによる事例報告と参加者を交えての活発な意見交換が行われました。クロージングセッションでは、各分科会で話し合われた内容を参加者同士が報告し、今後のことも若者参画のあり方についてお互いの考えを共有しました。

最後に長谷川寛彦市長と子ども若者参画協議会のメンバーが「菊川市子ども・わかもの参画宣言」を読み上げ、サミットは幕を閉じました。

全国的な課題となっている 若者の社会参画

今年4月に子ども基本法が施行され、子ども政策を中心に担う子ども家庭庁が創設されました。子ども基本法には、日本ではじめて子どもの意見反映の義務規定が設けられ、子どもの参画や意見反映の重要性が増しています。これまで支援や保護、教育